

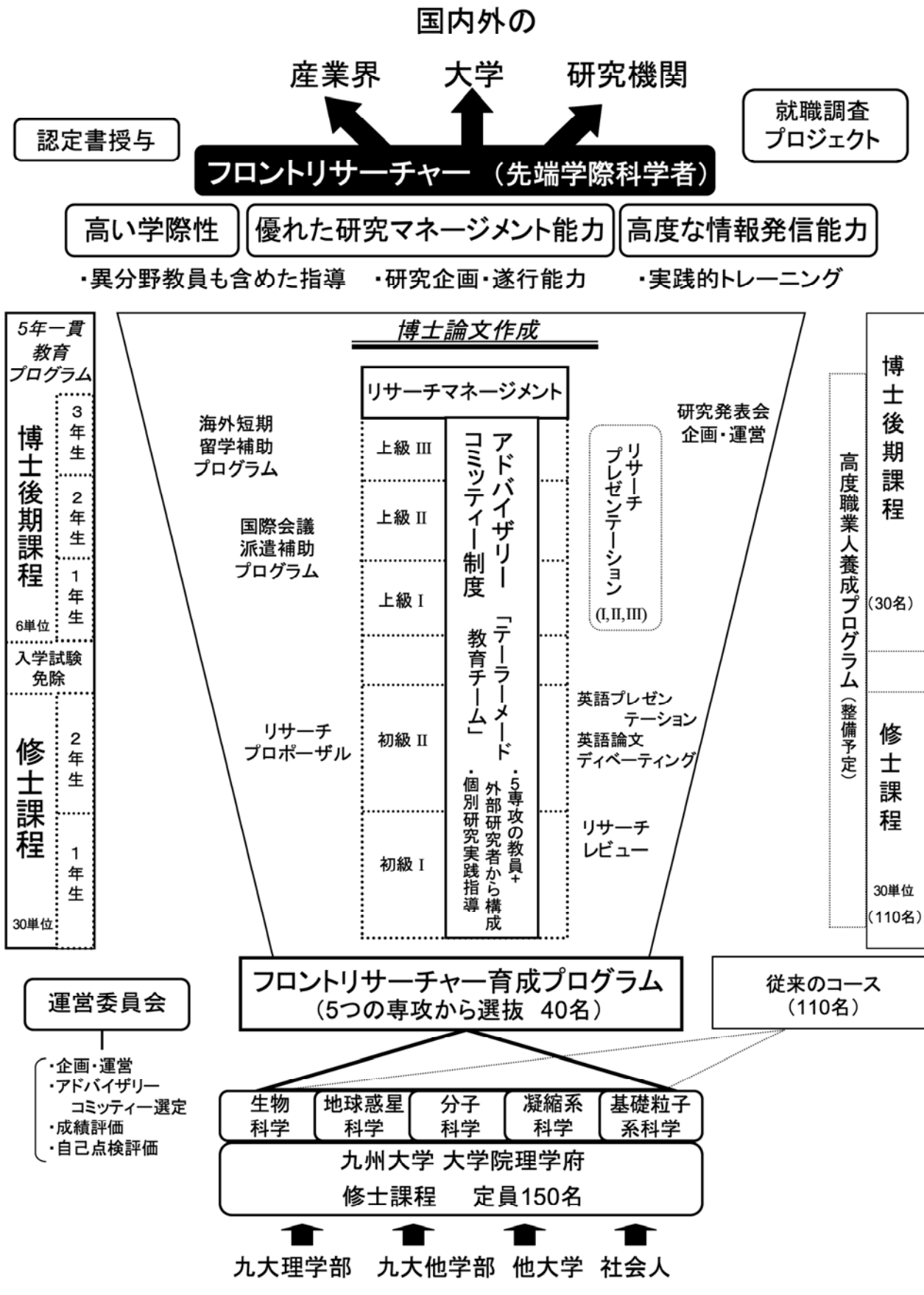
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	九州大学	整理番号	b036
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	フロントリサーチャー育成プログラム －企画・発信する先端学際科学者の育成－		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 物質科学、地球科学、生物科学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (理学教育、基礎科学教育、テーラーメイド教育、研究マネジメント論)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 理学府・分子科学専攻[修士課程] 理学府・分子科学専攻[博士後期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名 小田垣 孝	
	(その他関連する研究科・専攻名) 理学府・基礎粒子系科学専攻[修士課程、博士後期課程] 理学府・凝縮系科学専攻[修士課程、博士後期課程] 理学府・地球惑星科学専攻[修士課程、博士後期課程] 理学府・生物科学専攻[修士課程、博士後期課程]		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>九州大学は、平成9年より大学院重点化に着手し、平成12年度には全国に先駆けて研究科を教育組織である学府と研究組織である研究院に分離(学府・研究院制度)し、研究の枠を越えた自由な教育組織編成を実現させた。国立大学の独立法人化後も総長のリーダーシップの下、「大学院教育の学際化と国際化」を目標に一層の充実が図られている。本事業が目標とする「企画・発信する先端学際科学者の育成」は、九州大学における大学院教育改革の方針に沿うものである。また、社会や時代の変化に伴い、専門知識や研究能力に加えて、1) 研究課題の企画・実行から成果発信までの一貫した実施、2) 異分野への積極的な展開、3) 国際的な場における活動を、直ちに実行できる人材が社会から強く求められている。これら時代の要請に応える理学府の本事業は、本学の大学院教育において重要な位置を占めるものであり、大学として財政支援を含めて強力に支援するものである。</p>			

機 関 名	九州大学	整理番号	b036
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>理学府では、平成10年からの大学院重点化により、物理学と化学の融合教育を目指した「凝縮系科学専攻」を設置するなど、各専攻を再編するとともに、様々な先進的取組を行ってきた。修士1年生による総合報告の作成と発表、専攻主催の研究会の大学院生自らによる運営、個別学生に対する教員の集団的な指導、海外への研究留学支援、専攻横断的な演習科目の設置など、専攻ごとに独自の取組が行われてきている。平成15年には「九州大学大学院理学府規範」が制定され、「課題発見能力と問題解決能力」の育成を重視した組織的な大学院教育の充実がさらに進められた。</p> <p>21世紀ではこれまで以上の速さで科学の進展が予想され、さらに学際性、多様性が求められている現状から、特に理学系大学院では、既存の科学分野を俯瞰するとともに新領域を開拓できる科学者、専門的な研究に関しても広く社会に向けて情報発信できる科学者の育成が求められている。これまで各専攻において個別に行われてきた取組を総括し、それを理学府全体に広げ、フロントリサーチャー育成プログラムとして体系化し集約することが急務である。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>本計画は次の3点に要約される。第一に、次世代の研究リーダーを育成するために、選抜された学生を対象とする5年一貫の専攻横断型特別教育プログラムを新設する。第二に、広く科学を俯瞰できる学際研究者を育成するために、個々の学生に対して最適化したテーラーメイド教育を実施する。第三に、他大学院の教育プログラムに例をみない研究マネジメント論の指導を行う。これらの取り組みにより、自ら一貫して研究をデザイン、マネジメントし広く社会に情報発信できる先端学際科学者「フロントリサーチャー」の育成を目指す。</p> <p>1. 専攻横断型特別教育プログラム： 次世代の研究リーダーには高度な能力が要求されるため、その養成には早い時期からの英才教育が不可欠である。志が高く優秀な大学院生を対象として、学府に共通の5年一貫の「フロントリサーチャー育成プログラム」を新たに設置する。</p> <p>2. 学際教員によるテーラーメイド教育： 既存の科学分野を俯瞰するとともに新領域を開拓できる人材の育成には、直接の指導教員以外に学際的な教員集団が不可欠である。そのために、個々の学生に最適化した少人数の専攻横断型教員チーム(アドバイザーコミッティー)を設置し、オープンループな個別集団指導を行う。従来行われている専攻教育を縦糸とすると、本プログラムはそれに加わる横糸に相当し、広い視野と柔軟性に富む若手リーダー育成に、学府教員が一致団結して専攻横断的に取り組むものである。</p> <p>3. 研究マネジメント論の指導： 従来の教育プログラムには前例のない、研究調査・研究企画・研究管理・研究評価・成果発信の管理を一貫して行う研究マネジメント論の指導を他大学に先駆けて実施する。アドバイザーコミッティーの指導の下、学生自ら研究を管理する「リサーチマネジメント」を中心に、「リサーチレビュー」「リサーチプロポーザル」「リサーチプレゼンテーション」「ディベート」などの新設授業科目(演習)を通じて、研究企画から成果発信までの優れた研究マネジメント能力を発揮する次世代の研究リーダーを育成することを目指す。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



機 関 名	九州大学	整理番号	b036
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 293 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 488 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 533 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 857">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 904">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 965 633 999">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1014 1428 1144" style="list-style-type: none"> ・理学府全体を挙げての5年一貫の共通プログラムであり、その位置付けが全体の教育体系の中で明確にされている。また、学際教員によるテーラーメイド教育や、研究マネジメント論の指導などを、カリキュラムに取り入れて、組織的に推進する意欲的な取組である。 			